

## お手紙の紹介

令和元年12月に厚生労働大臣表彰を受賞され、令和2年10月に逝去された元吾川支部長(仁淀川町 大崎地区)黒川武志さん(青年部長 黒川真介さん父)が、当時事務局へ送ってくださったお手紙を、ご家族のご了解を得て紹介いたします。



新年明けまして御目出度うございます。令和2年の幕明けに、ふさわしい一年であつてと願うところです。

昨年は大風、大雨と各地域で多大な災害をもたらし、苦しんでいる皆さん、どうぞ強い気持ちをもって一步一步と前へ進んでいただきたいと願うものです。

さて、此の度思いもよらぬ厚生労働大臣表彰の授与の一報をいただき、私にその表彰に値するものがあるだろうかと思いました。

同時に受賞される友人より、「一緒に東京へ行きませんか。」とお誘いを受けまし

たが、病床の身で残念ながら参加できないので、自分の分も、と靖国神社の参拝もお願いしたところです。

振り返ってみると、遺族会との始まりは、父の実家の地区の春のお彼岸のお祭りに参加したことでした。

聞くところによると、戦後の物資不足の折、地区の皆さんが何kmも離れた川原から、荷車で重たい大きな石を運び、それを慰霊碑とし、地域を挙げてお祀りされたというところで、頭の中に記憶していました。

父は終戦間際の昭和20年、沖縄に上陸前に戦死。と話に聞かされていました。無念な最後だったと思います。妻や、子どものことを想って苦しんだことでしょう。

無念な気持ちは帰りを待つ家族も、この上なく悲しい思いでした。

沖縄に幾度も訪れ、戦没者名の刻まれた礎の中にある父の名前を探し、目にした時の自分の気持ち、張りつめていた感情がひとり言葉に「お父さん」と出たのを忘れることが出来ずにおりました。

最近では土佐之塔慰霊祭に孫、ひ孫と家族で参加し、碑には持参した土佐の酒を頭から清めて手を拝したことです。

やがて世話役に。との声もあり、以来30有余年の年月がたち、地元遺族会の会長に選ばれて遺族会のお手伝いをと成ってきました。



平成27年に建立された仁淀川町大崎地区・名野川地区の慰霊碑

その間に多くの会員さんたちとの繋がりが広がり、自分達の出来る事を後世に残しておかないと、戦死された英霊の名前も分からなくなるのではと申し訳ない気持ちになり、地区の会員さんたちと相談し、英霊名を刻んだ慰霊碑を作ることが決まり、取り組みが始まりました。

多くの関係者の方々の大変な御協力をいただき、分かり易く地域ごとに分別した、立派な四百二十二名の英霊名を刻み、後世の孫たちに手渡して御守りをお願いできると思うと心も落ち着いたことです。

県遺族会も大石会長さんや役員さんたちが話し合いを重ね、孫たちによる青年部(次世代の会)も結成されて、やがて今の親組織にと願うものであります。減少していく会員のことご心配がかかります。これから先、会員皆協力して会員増に成るように遺族会の皆様のご理解をいただき、ご支援を願うものです。どうもありがとうございます。